

既発表論文一覧

本書中、収めた既発表の論文は以下の通りである。収めるにあたり筆削を加えた。本書における所在は各項目末尾の括弧内に示す。

- 「文字分析による『和漢朗詠集』雲紙本と関戸本との関係」（『語文』第113輯 平成14年6月 日大国文学会）【第一章第一節】
- 「『和漢朗詠集』雲紙本と関戸本の関係」（『日本語と辞書』第2輯 平成9年5月 古辞書研究会）【第一章第二節】
- 「雲紙本和漢朗詠集にみられる別筆」（『語文』第107輯 平成12年6月 日大国文学会）【第一章第三節】
- 「伊予切和漢朗詠集の書に関する一考察」（『語文』第121輯 平成17年3月 日大国文学会）【第二章第一節】
- 「『和漢朗詠集』伊予切〈第一種〉の書―粘葉本との関係―」（『語文』第149輯 平成26年6月 日大国文学会）【第二章第二節】
- 「『和漢朗詠集』伊予切〈第一種〉と粘葉本の書に関する一考察」（『お茶の水女子大学人文科学研究』第12巻 平成28年3月）【第二章第三節】
- 「近衛本『和漢朗詠集』の性格―粘葉本系統との関係を中心に―」（『書学書道史研究』第24号 平成26年10月 書学書道史学会）【第二章第四節】
- 「『和漢朗詠集』伊予切の性格―粘葉本との関係を中心に―」（『語文』第153輯 平成27年12月 日大国文学会）【第二章第五節】
- 「安宅切『和漢朗詠集』の位置」（『語文』第117輯 平成15年12月 日大国文学会）【第三章第一節】
- 「卷子本『和漢朗詠集』の位置」（『語文』第122輯 平成17年6月 日大国文学会）【第三章第二節】
- 「葦手本『和漢朗詠集』の位置」（『中古文学』第61号 平成10年5月 中古文学会）【第三章第三節】
- 「十二世紀書写とされる『和漢朗詠集』諸伝本について―葦手本を中心として―」（『書学書道史研究』第16号 平成18年9月 書学書道史学会）【第三章第三節】

- 「戊辰切『和漢朗詠集』の位置」〔『語文』第114輯 平成14年12月 日大国文学会〕【第三章 第四節】
- 「『和漢朗詠集』葦手本と戊辰切巻上の書に関する考察」〔『語文』第138輯 平成22年12月 日大国文学会〕【第三章 第五節】
- 「山城切『和漢朗詠集』の本文」〔『語文』第102輯 平成10年12月 日大国文学会〕【第三章 第六節】
- 「久松切『和漢朗詠集』の位置」〔『語文』第119輯 平成16年6月 日大国文学会〕【第三章 第七節】